

## 研究教育業績(過去5年間)

## I. 研究業績

## 1. 主な発表論文

## [原著論文]

1. Ogino, H., Okuno, T., Murano, K., Ueno, H. Naturally Oxidized Olive Oil Promotes Active Cutaneous Anaphylaxis and Th2 Cytokine Production. *Biol. Pharm. Bull.* 44, 838-843 (2021)
2. Arakawa, T., Okubo, H., Mae, M., Okuno, T., Ogino, H., Ueno, H. Seleno-L-Methionine Suppresses Immunoglobulin E-Mediated Allergic Response in RBL-2H3 Cells. *Biol. Pharm. Bull.* 42, 1179-1184 (2019)
3. Ogino, H., Okuno, T., Murano, K., Arakawa, T., Ueno, H. Naturally oxidized olive oil exacerbates contact hypersensitivity by promoting differentiation into effector T cells and increasing antigen-specific IFN- $\gamma$  production. *Food Agric. Immunol.* 30, 74-86 (2018)
4. Ogino, H., Murano, K., Okuno, T., Sakazaki, F., Arakawa, T., Ueno, H. IL-18 and IFN- $\gamma$  expression enhances contact hypersensitivity after oral administration of naturally oxidized olive oil to mice. *Food Agric. Immunol.* 29, 886-897 (2018)
5. Arakawa, T., Sugiyama, T., Matsuura, H., Okuno T., Ogino, H., Sakazaki, F., Ueno, H. Effects of supplementary seleno-L-methionine on atopic dermatitis-like skin lesions in mice. *Biol. Pharm. Bull.* 41, 1456-1462 (2018)

## 2. 主な学会発表

## [国際学会]

1. Ogino, H., Murano, K., Okuno, T., Arakawa, T., Ueno, H. Role of supplementary seleno-L-methionine on oxidative stress and the induction of insulin resistance in high fat diet-fed NSY mice. The 7th International Selenium Conference. October, Shiga, Japan (2018)

## [国内学会]

## 一般講演

1. 荻野泰史、尾崎美久、村野晃一、滝口侑真、松坂海聖、奥野智史、上野仁、老化に伴う耐糖能および運動機能低下と骨格筋中セレンタンパク質発現との関連性、フォーラム2022衛生薬学・環境トキシコロジー、8月、熊本 (2022)
2. Ogino, H., Murano, K., Okuno, T., Ueno, H. Relationship between induction of insulin resistance and selenoprotein expression in skeletal muscle in diabetic mouse model. 第49回日本毒性学会学術年会、7月、北海道 (2022)
3. 荻野泰史、谷口由起、野間久美子、奥野智史、上野仁、接触性過敏反応モデルにおける皮膚感作性に及ぼす酸化オリブ油の影響、日本薬学会第142年会、3月、愛知 (2022)

4. 荻野泰史、山崎稜真、舟越将哉、奥野智史、上野仁、酸化オリブ油によるDNFB誘発性皮膚炎の増悪化とTh17細胞の関与、フォーラム2021衛生薬学・環境トキシコロジー、9月、千葉（2021）
5. 荻野泰史、林 智也、上田陽紀、奥野智史、上野仁、腹腔マクロファージの刺激応答に及ぼす酸化オリブ油の影響、日本薬学会第141年会、3月、広島（2021）
6. 荻野泰史、山崎稜真、舟越将哉、奥野智史、上野仁、接触性過敏反応における酸化オリブ油の増悪化作用とその作用機構の検討、第70回日本薬学会関西支部総会・大会、10月、滋賀（2020）
7. 荻野泰史、野内直矢、岸本早織、奥野智史、上野仁、酸化オリブ油によるマクロファージ系細胞の刺激応答活性化に関する検討、第73回日本酸化ストレス学会学術集会、10月、鳥取（2020）
8. 荻野泰史、舟越将哉、山崎稜真、奥野智史、上野仁、接触性皮膚炎の皮膚感作性に及ぼす酸化オリブ油の影響、フォーラム2020衛生薬学・環境トキシコロジー、9月、愛知（2020）
9. 荻野泰史、舟越将哉、山崎稜真、奥野智史、荒川友博、上野仁、アレルギー増悪化因子としての酸化植物油の免疫毒性学的研究 ―酸化オリブ油によるマウス接触性過敏反応増悪化の作用機構の検討一、第69回日本薬学会関西支部総会・大会、10月、兵庫（2019）
10. 荻野泰史、川嶋美帆、奥野智史、荒川友博、上野仁、酸化オリブ油が抗原提示細胞に及ぼす影響、フォーラム2019衛生薬学・環境トキシコロジー、8月、京都（2019）
11. 荻野泰史、村野晃一、須澤大輝、奥野智史、荒川友博、上野仁、第72回日本酸化ストレス学会学術集会、6月、北海道（2019）
12. 荻野泰史、舟越将哉、山崎稜真、奥野智史、荒川友博、上野仁、接触性過敏反応時におけるIL-18発現に及ぼす酸化オリブ油の影響、日本薬学会第139年会、3月、千葉（2019）
13. 荻野泰史、上田陽紀、村野晃一、荒川友博、奥野智史、上野仁、酸化オリブ油がマクロファージの貪食能に及ぼす影響、日本薬学会第138年会、3月、石川（2018）
14. 荻野泰史、上田陽紀、奥野智史、荒川友博、上野仁、マクロファージ系細胞の貪食能および遊走能に及ぼす酸化オリブ油の影響、フォーラム2018衛生薬学・環境トキシコロジー、9月、長崎（2018）

### 3. その他特筆すべき研究業績

#### [研究費の受け入れ]

1. 荻野泰史（分担）、文部科学省科学研究費補助金基盤C一般、加齢に伴う筋萎縮とインスリン抵抗性評価のための体内セレンおよびレドックス制御解析（研究代表者：上野 仁）、3, 120千円（2019-2022）
2. 荻野泰史（分担）、文部科学省科学研究費補助金基盤C一般、インスリン抵抗性に及ぼすセレンタンパク質と体内レドックス制御解析（研究代表者：上野 仁）、4, 290千円（2016-2018）

## II. 教育業績

### 1. 担当授業科目

（以下摂南大学薬学部での業績）

2022年度

- 1) 生物・衛生系薬学実習（3年）
- 2) 実践薬学Ⅱ（4年）
- 3) 応用薬学実習（4年）
- 4) 薬学研究Ⅰ・Ⅱ（5年、6年）

2021年度

- 1) 生物・衛生系薬学実習 (3年)
- 2) 実践薬学Ⅱ (4年)
- 3) 応用薬学実習 (4年)
- 4) 薬学研究Ⅰ・Ⅱ (5年、6年)

2020年度

- 1) 生物・衛生系薬学実習 (3年)
- 2) 衛生医療薬学演習 (4年)
- 3) 早期体験学習 (1年)
- 4) 応用薬学実習 (4年)
- 5) 特別研究Ⅰ・Ⅱ (5年、6年)

2019年度

- 1) 生物・衛生系薬学実習 (3年)
- 2) 早期体験学習 (1年)
- 3) 応用薬学実習 (4年)
- 4) 特別研究Ⅰ・Ⅱ (5年、6年)

2018年度

- 1) 衛生薬学実習 (3年)
- 2) 早期体験学習 (1年)
- 3) 応用薬学実習 (4年)
- 4) 特別研究Ⅰ・Ⅱ (5年、6年)

## 2. その他特筆すべき教育業績

- 1) バドミントン部コーチ (2012～2022年度)